近森リハビリテーション病院　リハビリテーション部

部長　小笠原　正

はじめに

2022 年度は PT 4 名、OT 4 名、ST 1 名を採用しリハビリテーション部の運営をおこなった。また、昨年に続き、新型コロナウイルス感染対応として、リハ部の訓練体制や人員配置などに配慮しながら、コロナ禍でも効率的に業務が出来る様な運営体制を取った。

運営・取組み

組織運営に関しては、昨年に引き続き、PT、OT 科、それぞれ各ユニットに 1 名ずつ、各階に2名の療法士長を配置し、コロナ対策としてフロアー完結体制での運営を行った。また、9 月より 4 階東病棟でコロナ陽性者の受け入れが開始され、これからに対応するため PT、OT、ST の人員調整も行った。

研修や推進課題については、昨年より継続しリモートの研修や、吸引研修、ノーリフティングケアを推進し、各科においてはステップに応じた研修も実施することができた。以下各科の具体的な取り組みについて述べる。

PT 科では、病床稼働に合わせた単位数の調整や、人員調整を行い、効率的な業務ができる体制を取った。また、教育面では、日本理学療法士協会の生涯学習制度に対応できるよう、院内研修の方法を変更したことで、研修会、症例検討会などを計画的に行うことができた。学術活動では、学会発表2題、論文投稿（海外）1 題が採用された。

OT 科では、1 ユニット 5～6 名体制で運営を行ったほか、近森病院やオルソリハ病院、訪問リハなどの施設間ローテーションを積極的に行い経験値の向上に努めた。教育面では上肢ロボット、CI 療法、ADL・IADL・高次脳機能・自動車運転の専門チームによる活動を行った。教育場面では、前記の専門チームによるマニュアル作りや、データーの蓄積に取り組んだ。また学術活動では各学会に 3 題の発表を行った。

ST 科では、各フロアーに 4 名のスタッフを配置し運営を行った。摂食機能療法に関しては、加算の算定を見直し、対象者の絞り込みを行った他、疾患別リハビリテーションンを主軸に置いた対応の強化を図った。また、例年行っている失語症友の会の親睦会に関しては、本年度も昨年に引き続き感染防止のため実施できなかった。

終わりに

2022 年度は、コロナ禍による感染対策として、昨年に引き続き訓練体制の見直しや、研修体制の見直しを行いながら組織運営を行った。また、本年度は感染状況を見ながら実習生の受け入れを行った他、例年よりは少なかったが、学会発表、論文投稿（海外）も行えた。

次年度は本年度の経験をもとに、臨床・研究の分野でもより積極的な取り組みを行いたいと考えている。さらに、業務に関しては、今以上に効率化を図る他、管理・運営体制の見直しも行いたいと考えている。